

併用薬剤名

# インジナビル

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

HIV プロテアーゼ阻害薬

抗 HIV 薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	アルプラゾラム	過度の鎮静や呼吸抑制等	チトクローム P450 に対する競合的阻害により、アルプラゾラムの血中濃度が大幅に上昇することが予測されている。
注意	トラゾドン	トラゾドンの血中濃度↑ トラゾドンを減量するなど用量に注意すること。	トラゾドンの代謝↓
禁忌	トリアゾラム	トリアゾラムの作用↑及び作用時間↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝↓血中濃度↑
注意	フェノバルビタール	インジナビルの作用↓	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、インジナビルの血中濃度↓

併用薬剤名

# インスリン製剤

関連キーワード:

血糖降下薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	血糖降下薬の作用↑	機序不明
注意	イミプラミン	過度の血糖低下を来すとの報告がある。	他の三環系抗うつ剤(ドキセピン)では低血糖に対する反応性が変化するか、インスリンに対する感受性が増大し、血糖降下作用が増強すると考えられている。
注意	クロミプラミン	過度の血糖低下を来すことがある。	クロミプラミンでの機序は不明。他の三環系抗うつ剤(ドキセピン)では低血糖に対する反応性が変化するか、インスリンに対する感受性が増大し、血糖降下作用が増強すると考えられている。
注意	ノルトリプチリン	これらの薬剤の血糖降下作用が増強することがある。	機序は不明(ノルトリプチリンがインスリン感受性を増強?)

注意	マプロチリン	過度の血糖低下を来すとの報告がある。	マプロチリンでの機序は不明であるが、三環系抗うつ剤(ドキセピン)により低血糖に対する反応性が変化するか、インスリンに対する感受性が増大し、血糖降下作用が増強すると考えられている。
----	--------	--------------------	---

併用薬剤名
<b>エピネフリン</b>
関連キーワード: アドレナリン作働薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アドレナリン作働薬の作用↑	三環系抗うつ剤は交感神経末梢へのノルエピネフリンの取り込みを抑制し、受容体のアドレナリン作動性↑
注意	アモキサピン	アドレナリン作働薬の作用↑	アモキサピンは交感神経末梢へのノルエピネフリンの取り込みを抑制し、受容体のアドレナリン作動性を上昇させ、作用を増強させることがある。
注意	イミプラミン	アドレナリン作働薬の作用↑	三環系抗うつ薬は交感神経末梢へのノルアドレナリン等の取り込みを抑制する。
禁忌	オランザピン	重篤な血圧降下	オランザピンの $\alpha$ 受容体遮断作用により、 $\beta$ 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強される。
禁忌	クエチアピン	重篤な血圧降下	クエチアピンの $\alpha$ 受容体遮断作用により、 $\beta$ 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強される。
禁忌	スピペロン	重篤な血圧降下	スピペロンの $\alpha$ 受容体遮断作用により、 $\beta$ 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強される。
注意	スルトプリド	重篤な血圧降下	スルトプリドの $\alpha$ 受容体遮断作用により、 $\beta$ 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強される。
禁忌	ゾテピン	重篤な血圧降下	ゾテピンの $\alpha$ 受容体遮断作用により、 $\beta$ 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強される。
注意	マプロチリン	アドレナリン作働薬の作用↑	マプロチリンは交感神経末梢へのノルエピネフリン等の取り込みを抑制し、受容体部位へのアドレナリン作動性を上昇させ、作用を増強させる。
注意	ミルナシプラン	アドレナリン作働薬の作用↑	三環系抗うつ薬は交感神経末梢へのノルアドレナリン等の取り込みを抑制する。
禁忌	モペロン	血圧降下	モペロンの $\alpha$ 受容体遮断作用により、 $\beta$ 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強される。

## 併用薬剤名

**エファビレンツ**

## 関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤  
 抗 HIV 薬  
 HIV 逆転写酵素阻害剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	トリアゾラム	トリアゾラムの作用 ↑ 及び作用時間 ↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝 ↓ 血中濃度 ↑
禁忌	ミダゾラム	不整脈、持続的な鎮静や呼吸抑制	CYP3A4 阻害により、ミダゾラムの血中濃度 ↑

## 併用薬剤名

**エリスロマイシン**

## 関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤  
 マクロライド系抗生物質

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	クエチアピン	クエチアピンの作用 ↑ 個々の患者の症状及び忍容性に注意し、慎重に投与する。	CYP3A4 の非競合的に阻害により、クエチアピンのクリアランス ↓ (外国人におけるケトコナゾール併用例において、クエチアピンの血漿中濃度 ↑)
注意	ゾピクロン	ゾピクロンの作用 ↑	CYP3A4 阻害により、ゾピクロンの代謝 ↑
注意	トリアゾラム	トリアゾラムの作用 ↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝 ↓ 血中濃度 ↑
禁忌	ピモジド	QT 延長、心室性不整脈等	代謝阻害により、ピモジドの血中濃度 ↑
注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用 ↑	CYP3A4 阻害作用により、ミダゾラムの血中濃度 ↑

## 併用薬剤名

**エレトリプタン**

## 関連キーワード:

5-HT<sub>1B/1D</sub> 受容体作動薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	セルトラリン	脱力、反射亢進、協調運動障害、錯乱、不安、焦燥、興奮があらわれることがある。	相加作用

併用薬剤名

## 黄体・卵胞ホルモン剤

例)

ノルゲストレル・エチニルエストラジオール など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	イミプラミン	イミプラミンの作用↑	黄体・卵胞ホルモン製剤により、イミプラミンの肝代謝が阻害され、血中濃度↑
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度↑	イミプラミンの代謝↓の報告がある。
注意	フェノバルビタール	黄体・卵胞ホルモン剤の薬剤の作用↓ 用量に注意すること。	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、黄体・卵胞ホルモン剤の薬剤の血中濃度↓
注意	ロフェプラミン	他の三環系抗うつ薬(イミプラミン)で作用↑の報告がある。	黄体・卵胞ホルモン製剤により、イミプラミンの肝代謝が阻害され、血中濃度↑

併用薬剤名

## オメプラゾール

関連キーワード:

CYP1A2 誘導作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	オランザピン	オランザピンの作用↓	CYP1A2 誘導作用により、オランザピンのクリアランス↑、血中濃度↓
注意	ジアゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	ジアゼパムのクリアランス↓(27~55%減)
注意	フルトプラゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	他のベンゾジアゼピン系化合物(ジアゼパム)のクリアランス↓の報告がある

併用薬剤名

## オランザピン

関連キーワード:

抗精神病薬

抗ドパミン作用を有する薬剤

非定型抗精神病薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フルボキサミン	オランザピンの血中濃度↑or半減期↑or AUC↑。オランザピンを減量するなどして注意して使用する。	オランザピンの代謝↓

併用薬剤名

## カリウム製剤(徐放性、腸溶剤)

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	カリウム製剤の消化管粘膜刺激があらわれやすい	アミトリプチリンの抗コリン作用により消化管運動↓

併用薬剤名

## カルシウム拮抗剤

例)

ニカルジピン

アムロジピン

ニフェジピン

ベラパミル

ジルチアゼム など

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

降圧薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	タンドスピロン	降圧作用↑	タンドスピロンのセロトニン受容体を介した中枢性の血圧降下作用による

注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用↑	CYP3A4 阻害作用により、ミダゾラムの血中濃度↑
----	-------	-----------	----------------------------

併用薬剤名

## カルバマゼピン

関連キーワード:

CYP1A2 誘導作用を有する薬剤

CYP3A4 誘導作用を有する薬剤

肝酵素誘導作用をもつ薬剤

抗てんかん薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用↓	CYP3A4 誘導作用によりアミトリプチリンの代謝↑により血中濃度↓
注意	アルプラゾラム	アルプラゾラムの血中濃度↓	アルプラゾラムの代謝↑
注意	イミプラミン	イミプラミンの血中濃度↓	肝酵素誘導作用による。
注意	オランザピン	オランザピンの作用↓	CYP1A2 誘導作用により、オランザピンのクリアランス↑、血中濃度↓
注意	クエチアピン	クエチアピンの作用↓	CYP3A4 の誘導により、クエチアピンのクリアランス↑(外国人でクリアランスが約5倍↑、Cmax が66%↓、AUC が80%↓)
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度↓	肝酵素誘導作用による。
注意	チミペロン	類似化合物(ハロペリドール)で作用が减弱し、運動性興奮や譫妄状態を起こすとの報告がある。 観察を十分に行う。	カルバマゼピンの代謝酵素誘導作用により、類似化合物(ハロペリドール)の代謝↑、血中濃度↓(平均60%)の報告がある。
注意	デカン酸ハロペリドール	デカン酸ハロペリドールの作用↓	薬物代謝酵素誘導作用により、デカン酸ハロペリドールの血中濃度↓
注意	トラゾドン	トラゾドンの血中濃度↓	トラゾドンの代謝↑
注意	パロキセチン	パロキセチンの作用↓	パロキセチンの代謝↑
注意	ハロペリドール	ハロペリドールの作用↓	薬物代謝酵素誘導作用により、ハロペリドールの血中濃度↓
注意	フェノバルビタール	カルバマゼピンの作用↓	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、カルバマゼピンの血中濃度↓
注意	フルボキサミン	抗てんかん薬の血中濃度↑ 抗てんかん薬を減量するなどして注意して使用する。	抗てんかん薬の血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑
注意	ブロムペリドール	ブロムペリドールの作用↓	薬物代謝酵素誘導作用により、ブロムペリドールの血中濃度↓
注意	リスペリドン	リスペリドンの作用↓	カルバマゼピンの薬物代謝酵素誘導により、リスペリドンおよび活性代謝物の代謝↑により血中濃度↓

併用薬剤名

## 肝酵素誘導作用をもつ薬剤

例)

バルビツール酸誘導体  
フェニトイン  
カルバマゼピン  
リファンピシン など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	イミプラミン	イミプラミンの血中濃度↓	肝酵素誘導作用による
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度↓	肝酵素誘導作用による
注意	マプロチリン	三環系抗うつ剤(イミプラミン)の作用↓	バルビツール酸誘導体又はフェニトイン等の肝酵素誘導作用により、イミプラミンの代謝↑
注意	ロフェプラミン	他の三環系抗うつ薬(イミプラミン)の血中濃度↓の報告がある。	肝薬物代謝酵素誘導作用によるの代謝促進でロフェプラミン血中濃度↓

併用薬剤名

## 肝初回通過効果を受けやすいβ-遮断剤

例)

塩酸プロプラノロール など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	マプロチリン	起立性低血圧、鎮静、口渇、霧視、運動失調等があらわれることがある。	代謝阻害によりマプロチリンの血中濃度↑

併用薬剤名

## キサンチン系気管支拡張剤

例)

テオフィリン など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フルボキサミン	めまい、傾眠、不整脈等。 テオフィリンの用量を1/3に減量するなど、注意して投与すること。	テオフィリンの代謝↓によってテオフィリンの血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑(クリアランスが1/3に低下)

## 併用薬剤名

**喫煙**

関連キーワード:

CYP1A2 阻害作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	オランザピン	オランザピンの作用↓	CYP1A2 誘導作用により、オランザピンのクリアランス↑、血中濃度↓

## 併用薬剤名

**キニジン**

関連キーワード:

CYP2D6 阻害作用を有する薬剤  
抗不整脈薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用↑	CYP2D6 阻害作用によりアミトリプチリンの代謝↓により血中濃度↑
注意	イミプラミン	イミプラミンの作用↑	抗不整脈薬により、イミプラミンの肝代謝が阻害され、血中濃度↑
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度↑	イミプラミンの代謝↓の報告がある。
注意	ドスレピン	ドスレピンの作用↑	三環系抗うつ剤の代謝↓
注意	ノルトリプチリン	ノルトリプチリンの血中濃度↑	ノルトリプチリンの代謝↓
注意	パロキセチン	パロキセチンの作用↑	パロキセチンの代謝↓
注意	マプロチリン	三環系抗うつ剤(イミプラミン)で作用↑	イミプラミンの代謝↓
注意	ロフェプラミン	他の三環系抗うつ薬(イミプラミン)で作用↑の報告がある。	キニジンの肝薬物代謝酵素阻害作用により、ロフェプラミンの代謝が抑制される。

## 併用薬剤名

**キヌプリスチン・ダルホプリスチン**

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	トリアゾラム	トリアゾラムの作用↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝↓血中濃度↑
注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用↑	CYP3A4 阻害作用により、ミダゾラムの血中濃度↑

併用薬剤名
<p><b>強心配糖体</b></p> <p>例) ジゴキシン など</p> <p>関連キーワード: ジギタリス製剤</p>

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	トラゾドン	ジゴキシンの血中濃度↑	機序不明

併用薬剤名
<p><b>筋弛緩薬</b></p> <p>例) スキサメニウム ツボクラリン パンクロニウム など</p>

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ゾピクロン	抗痙攣作用・中枢神経抑制作用↑ 併用しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用

併用薬剤名

## グアナベンズ

関連キーワード:

降圧薬(交感神経抑制作用を有するもの)

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	セチプチリン	降圧薬の作用↓	α2-アドレナリン受容体の拮抗作用。 (セチプチリンは遮断、降圧薬は刺激)

併用薬剤名

## クマリン系抗凝血薬

例)

ワルファリン など

関連キーワード:

止血・血液凝固を阻害する薬剤

出血傾向が増強する薬剤

出血症状の報告のある薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	クマリン系抗凝固薬の作用↑	アミトリプチリンの肝薬物代謝酵素阻害作用により、クマリン系抗凝固薬の代謝↓
注意	アモバルビタール	クマリン系抗凝血薬の作用↓ 通常より頻回にプロトロンビン値の測定を行い、クマリン系抗凝血薬の量を調整する。	アモバルビタールの薬物代謝酵素誘導によってクマリン系抗凝結薬の代謝↑、作用↓
注意	イミプラミン	クマリン系抗凝血剤の血中濃度半減期↑	機序不明。他の三環系抗うつ薬(ノルトリプチリン)で報告がある。
注意	クロミプラミン	クマリン系抗凝血剤の血中濃度半減期↑	機序不明。他の三環系抗うつ剤(ノルトリプチリン)で報告あり。
注意	セコバルビタール	クマリン系抗凝血薬の作用↓ 通常より頻回にプロトロンビン値の測定を行い、クマリン系抗凝血薬の用量を調節する。	セコバルビタールの薬物代謝酵素誘導により、クマリン系抗凝血薬の代謝↑
注意	セルトラリン	ワルファリンのプロトロンビン反応時間AUCが軽度上昇(8%)したとの報告がある。セルトラリンの投与を開始もしくは中止する場合は、プロトロンビン時間を慎重にモニターすること。	機序不明
注意	トラゾドン	プロトロンビン時間↓	機序不明

注意	トリクロホスナトリウム	クマリン系抗凝血剤の作用↑ 通常より頻回にプロトロンビン値の測定を行うなど慎重に投与する。	トリクロホスナトリウムの主代謝産物であるトリクロ酢酸が血漿蛋白結合部位からワルファリンを遊離置換し、遊離型ワルファリン濃度を増加させる。
注意	ノルトリプチリン	クマリン系抗凝血剤の血中濃度半減期↑	ワルファリンの肝代謝↓
注意	バルビタール	クマリン系抗凝血剤の作用↓ 通常より頻回に血液凝固時間の測定を行い、クマリン系抗凝血剤の量を調整する。	バルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用によって、半減期↓
注意	パロキセチン	他の抗うつ剤でクマリン系抗凝固薬の作用↑の報告あり。	パロキセチンとの相互作用は認められていない。
注意	フェノバルビタール	クマリン系抗凝血剤の作用↓ 通常より頻回に血液凝固時間の測定を行い、クマリン系抗凝血剤の用量を調整する。	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用による。
注意	フルボキサミン	ワルファリンの血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑ プロトロンビン時間を測定し、ワルファリンの用量を調節するなど、注意して投与すること。	ワルファリンの代謝↓
注意	抱水クロラール	クマリン系抗凝固剤の作用↑ 通常より頻回にプロトロンビン値の測定を行うなど慎重に投与する。	抱水クロラールは血漿たん白に結合したクマリン系抗凝固血剤を遊離させる。
注意	マプロチリン	クマリン系抗凝血剤の血中濃度半減期↑	機序不明。他の三環系抗うつ薬(ノルトリプチリン)で報告がある。

併用薬剤名
<b>クラーレ様物質</b>
例) ツボクラリン パンクロニウム など
関連キーワード: 筋弛緩薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アモバルビタール	相互に作用↑ 減量するなど慎重に投与する。	クラーレ様物質の筋弛緩作用↑
注意	セコバルビタール	筋弛緩作用↑ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	バルビタール	相互に作用↑ 減量するなど注意する。	相加作用
注意	ペントバルビタール	筋弛緩作用、呼吸抑制作用↑ 異常が認められた場合には、ペントバルビタールを減量するなど適切な処置を行う。	相加作用

併用薬剤名

## クラリスロマイシン

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

マクロライド系抗生物質

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	ピモジド	QT 延長、心室性不整脈等	代謝阻害により、ピモジドの血中濃度↑
注意	トリアゾラム	トリアゾラムの作用↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝↓血中濃度↑
注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用↑	CYP3A4 阻害作用により、ミダゾラムの血中濃度↑

併用薬剤名

## クリキシバン

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

HIVプロテアーゼ阻害薬

抗 HIV 薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	アルプラゾラム	過度の鎮静や呼吸抑制等	CYP3A4 に対する競合的阻害により、アルプラゾラムの血中濃度が大幅に上昇することが予測されている。

併用薬剤名

## グリセオフルビン

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フェノバルビタール	グリセオフルビンの作用↓	フェノバルビタールの消化管ぜん動運動亢進作用によるグリセオフルビンの吸収↓、血中濃度↓

併用薬剤名

## グリベンクラミド

関連キーワード:

経口血糖降下薬

血糖降下薬

スルフォニル尿素系糖尿病用剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	イミプラミン	過度の血糖低下を来すとの報告がある。	他の三環系抗うつ剤(ドキセピン)では低血糖に対する反応性が変化するか、インスリンに対する感受性が増大し、血糖降下作用が増強すると考えられている。
注意	クロミプラミン	過度の血糖低下を来すことがある。	クロミプラミンでの機序は不明。他の三環系抗うつ剤(ドキセピン)では低血糖に対する反応性が変化するか、インスリンに対する感受性が増大し、血糖降下作用が増強すると考えられている。
注意	マプロチリン	過度の血糖低下を来すとの報告がある。	マプロチリンでの機序は不明であるが、三環系抗うつ剤(ドキセピン)により低血糖に対する反応性が変化するか、インスリンに対する感受性が増大し、血糖降下作用が増強すると考えられている。

併用薬剤名

## グレープフルーツジュース

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

食品

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ピモジド	QT 延長、心室性不整脈等 グレープフルーツジュースとの同時服用を しないように注意する。	CYP3A4 阻害により、ピモジドの血中 濃度 ↑

## 併用薬剤名

## クロニジン

関連キーワード：  
降圧薬(交感神経抑制作用を有するもの)

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	セチブチリン	降圧薬の作用↓	$\alpha$ 2-アドレナリン受容体の拮抗作用。 (セチブチリンは遮断、降圧薬は刺激)
注意	ミアンセリン	降圧薬の作用↓	ミアンセリンの $\beta$ 2受容体阻害作用によると考えられる。
注意	ミルナシプラン	降圧薬の作用↓ 観察を十分に行うこと。	ミルナシプランのノルアドレナリン再取り込み阻害作用によると考えられる。

## 併用薬剤名

## クロバザム

関連キーワード：  
抗てんかん薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フェノバルビタール	(1) フェノバルビタールの血中濃度↑ (2) クロバザムの血中濃度↓ 減量するなど注意すること。	(1) 機序不明 (2) フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用による。

## 併用薬剤名

## クロミプラミン

関連キーワード：  
三環系抗うつ薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	イミプラミン	セロトニン症候群があらわれるおそれがある。	相互にセロトニン作動性が増強される可能性がある。
注意	フルボキサミン	三環系抗うつ薬の血中濃度↑ 三環系抗うつ薬を減量するなどして注意して使用する。	三環系抗うつ薬の血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑

注意	セルトラリン	薬剤の血中濃度が上昇し、作用が増強されるおそれがある。	三環系抗うつ薬の代謝↓
注意	デカン酸ハロペリドール	抗コリン系の副作用↑(腸管麻痺等)、精神症状の悪化	相加作用
注意	ハロペリドール	抗コリン系の副作用↑(腸管麻痺等)、精神症状の悪化	相加作用
注意	ブロムペリドール	抗コリン系の副作用↑(腸管麻痺等)、精神症状の悪化	相加作用
注意	オランザピン	抗コリン系の副作用↑(腸管麻痺等)	相加作用
注意	ゾテピン	抗コリン作用↑	相加作用

併用薬剤名

**クロラムフェニコール**

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フェノバルビタール	クロラムフェニコールの作用↓ 用量に注意すること。	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、クロラムフェニコールの血中濃度↓

併用薬剤名

**クロルプロマジン**

関連キーワード:

- 抗精神病薬
- 中枢神経抑制薬
- 抗ドパミン作用を有する薬剤
- フェノチアジン系薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	スルピリド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状	相加作用
注意	チアプリド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状	相加作用
注意	トラゾドン	血圧低下を起こすおそれがある。	α受容体遮断の相加作用

併用薬剤名

## 経口血糖降下薬

関連キーワード：  
血糖降下薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	血糖降下薬の作用↑	機序は不明
注意	ノルトリプチリン	これらの薬剤の血糖降下作用が増強することがある。	機序は不明(ノルトリプチリンがインスリン感受性を増強?)

併用薬剤名

## 経腸成分栄養剤

関連キーワード：  
L-トリプトファンを含有する製剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フルボキサミン	セロトニン症候群	L-トリプトファンはセロトニンの前駆物質であるため、脳内セロトニン濃度が高まるおそれがある。
注意	セルトラリン	セロトニン作用が増強されるおそれがある。	L-トリプトファンはセロトニンの前駆物質であるため、脳内セロトニン濃度が高まるおそれがある。

併用薬剤名

## 痙攣閾値を低下させる薬剤

例)  
フェノチアジン誘導体 など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	マプロチリン	痙攣発作	相加作用 危険因子:痙攣素因のある患者

併用薬剤名

## 血糖降下薬

例)

インスリン  
トルブタミド  
経口血糖降下薬 など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アムリプチリン	血糖降下薬の作用↑	機序は不明
注意	セルトラリン	トルブタミドのクリアランスが減少(16%)したとの報告がある。	血糖降下薬の代謝を阻害するためと考えられる。
注意	ノルトリプチリン	これらの薬剤の血糖降下作用が増強することがある。	機序は不明(ノルトリプチリンがインスリン感受性を増強する?)

併用薬剤名

## ケトコナゾール

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤  
アゾール系抗真菌薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用↑	CYP3A4 阻害作用により、ミダゾラムの血中濃度↑

併用薬剤名

## 解熱・鎮痛薬

例)

イブプロフェン  
ジクロフェナクナトリウム  
アセトアミノフェン など

関連キーワード:

止血・血液凝固を阻害する薬剤  
出血傾向が増強する薬剤  
出血症状の報告のある薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アモバルビタール	相互に作用↑ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	セコバルビタール	中枢神経抑制作用↑ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	バルビタール	相互に作用↑ 減量するなど注意する。	相加作用
注意	ペントバルビタール	中枢神経抑制作用(催眠、鎮静、昏睡等) ↑ 定期的に臨床症状を観察し、異常があればペントバルビタールを減量するなど適切な処置を行う。	相加作用

#### 併用薬剤名

## ゲフィチニブ

関連キーワード:

CYP3A4 誘導作用を有する薬剤

抗悪性腫瘍薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アモバルビタール	ゲフィチニブの作用↓	アモバルビタールの CYP3A 誘導によってゲフィチニブの代謝↑血中濃度↓

#### 併用薬剤名

## 抗 HIV 薬

例)

リトナビル

インジナビル など

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

HIV 逆転写酵素阻害薬

HIV プロテアーゼ阻害薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	トラゾドン	トラゾドンの血中濃度↑ トラゾドンが減量するなど用量に注意すること。	トラゾドンの代謝↓

併用薬剤名			
<b>抗悪性腫瘍薬</b>			
例)			
ビノレルビン			
パクリタキセル    など			

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ミダゾラム	骨髄抑制等の副作用↑	CYP 阻害により、抗悪性腫瘍薬の代謝↓血中濃度↑

併用薬剤名			
<b>降圧薬</b>			
※を付記した薬剤は「交感神経抑制作用を有するもの」の但し書きあり			
関連キーワード:			
カルシウム拮抗薬			

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意 ※	イミプラミン	降圧薬の作用↓	イミプラミンがアドレナリン作動性神経遮断作用を有する降圧薬の交感神経ニューロンへの取り込みを阻害する。また、イミプラミンは交感神経ニューロンへのカテコラミン取り込み阻害作用も有する。
注意 ※	クロミプラミン	降圧薬の作用↓	クロミプラミンがアドレナリン作動性神経遮断作用を有する降圧薬の交感神経ニューロンへの取り込みを阻害する。また、クロミプラミンは交感神経ニューロンへのカテコラミン取り込み阻害作用も有する。
注意	クロルプロマジン	血圧↓ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意 ※	セチプチリン	降圧薬の作用↓	α <sub>2</sub> -アドレナリン受容体の拮抗作用。(セチプチリンは遮断、降圧薬は刺激)
注意	ゾテピン	血圧↓	相加作用
注意	デカン酸フルフェナジン	起立性低血圧等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意 ※	ドスレピン	降圧薬の作用↓	三環系抗うつ剤がアドレナリン作動性ニューロンでの降圧薬(グアネチジン硫酸塩等)の取り込みを阻害するためと考えられる。

注意	トラゾドン	起立性低血圧及び失神を含む低血圧が起こるおそれがあるので、降圧薬の用量調節に注意すること。	トラゾドンによってもまた、血圧低下があらわれることがある。
注意	トリフロペラジン	起立性低血圧等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意 ※	トリミプラミン	降圧薬の作用↓	トリミプラミンは降圧薬の交感神経終末への取り込みを阻害する。
注意 ※	ノルトリプチリン	降圧薬の作用↓	これらの降圧薬はノルアドレナリンの取り込み機構により、交感神経終末に取り込まれて作用を示すが、ノルトリプチリンは降圧薬の取り込みを抑制すると考えられる。
注意	フルフェナジン	起立性低血圧等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	プロクロルペラジン	血圧↓ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	プロペリシアジン	血圧↓ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	ペルフェナジン	起立性低血圧等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	ペロスピロン	血圧↓ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意 ※	マプロチリン	降圧薬の作用↓	マプロチリンがアドレナリン作動性神経遮断作用を有する降圧薬の交感神経ニューロンへの取り込みを阻害する。また、マプロチリンは交感神経ニューロンへのカテコラミン取り込み阻害作用も有する。
注意 ※	ミアンセリン	降圧薬の作用↓	ミアンセリンのβ <sub>2</sub> 受容体阻害作用によると考えられる。
注意 ※	ミルナシプラン	降圧薬の作用↓ 観察を十分に行うこと。	ミルナシプランのノルアドレナリン再取り込み阻害作用によると考えられる。
注意	リスペリドン	血圧↓	相加作用
注意	レボメプロマジン	血圧↓ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意 ※	ロフェプラミン	他の三環系抗うつ薬(イミプラミン、アミトプチリン等)で降圧薬の作用↓	三環系抗うつ薬はアドレナリン作動性神経終末で降圧薬の取り込みを阻害すると考えられている。